

# 隨泉寺寺報

平成 22 年 (2010 年) 8 月号 第 480 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

お盆法要

講師 住職自修

講題 『お盆を迎えて』



## ■お盆のいわれと由来■

お盆の正式名称は「盂蘭盆会・うらぼんえ」と言います。浄土真宗では《歡喜会》と呼ばれています。お念仏に救われる喜びを表したものでしょう。古くからの農耕儀礼や祖霊祭祀などが融合して伝えられてきたのが日本のお盆です。お盆の習わしも、地域や宗教・宗派によって、あるいは時代によって、さまざまに形を変えながら伝えられてきました。しかし、親族が一堂に会し、先祖や故人を偲び、今日ある自分をかえりみるという、お盆の根幹をなす理念は、千古の昔から変わらないものだといっているでしょう。

## ◆盆と正月・・・藪入り（やぶいり）

「盆と正月」という言葉が聞かれるほど、日本人にとってお盆は大切な行事と考えられています。江戸の時代、お正月とお盆には奉公人が休みをとって実家に帰ることが出来る時期で、これを「藪入り」と称しました。

この時期はまた、他家に嫁いだ女性が実家に戻ることを出来る時期でもあり、自分と自分の家（先祖、ルーツ）の繋がりを確認する大切な行事でした。

## 8月の法座予定

- 8月 3日 …… 少年少女の集い
- 8月 8日 …… 掃除 高部
- 8月 16日 朝席 午前10時より …… お盆法要
- 8月 16日 昼席 午後1時半より …… 初盆追悼法要
- 8月 20日 午前9:00より …… 夏休み宿題大作戦
- 9月 2日 午後6時より …… 門信徒会本部役員会

## ☆平成 22 年初盆を迎えられる方

俗名	法名	命日	行年	地区	
上野	康子	釋康徳	平成 21 年 8 月 12 日	66 才	モンライ
野間	トノエ	釋明正	平成 21 年 8 月 25 日	98 才	海田
栢本	松美	釋聞声	平成 21 年 8 月 31 日	70 才	東長
上松	ミツコ	釋尼静俊	平成 21 年 9 月 13 日	93 才	鴨の巣
前田	トシ子	釋尼好道	平成 21 年 9 月 17 日	90 才	高部
谷	秀敏	釋智秀	平成 21 年 9 月 18 日	89 才	瀬野川団地
合田	行雄	釋行信	平成 21 年 9 月 30 日	40 才	平原西
品本	五郎	釋勝隆	平成 21 年 10 月 5 日	80 才	井原
笠原	和義	釋和良	平成 21 年 10 月 9 日	56 才	平原東
夏井	由則	釋由経	平成 21 年 10 月 11 日	63 才	望ヶ丘
谷浦	裕子	釋清裕	平成 21 年 11 月 1 日	58 才	中須賀
山下	アキノ	釋尼妙諦	平成 21 年 11 月 6 日	97 才	井原
岡田	公平	釋讚浄	平成 21 年 12 月 22 日	62 才	西長
和田	佳子	釋浄佳	平成 21 年 12 月 28 日	76 才	平原西
二野宮	實夫	釋大智	平成 22 年 1 月 27 日	84 才	宮原
植野	健治	釋浄健	平成 22 年 2 月 18 日	78 才	上平原 1
八木	隅枝	釋尼妙見	平成 22 年 2 月 19 日	94 才	西長
馬場	一司	一心院釋威徳	平成 22 年 2 月 24 日	84 才	荒野
鍋本	利丸	釋晃静	平成 22 年 2 月 27 日	81 才	他所
大垣	義雄	釋義勝	平成 22 年 3 月 19 日	88 才	荒野
迫	雅征	釋亮雅	平成 22 年 3 月 23 日	68 才	鴨の巣
佐久間	正子	久遠院釋正真	平成 22 年 4 月 13 日	85 才	他所
林	一則	釋一心	平成 22 年 4 月 15 日	65 才	平原東
小田	隆也	釋紹隆	平成 22 年 4 月 23 日	57 才	他所
西川	悦子	釋恵日	平成 22 年 5 月 9 日	80 才	瀬野
美崎	政雄	釋政浄	平成 22 年 5 月 13 日	84 才	中須賀
馬場	シツエ	以信院釋寂静	平成 22 年 5 月 22 日	88 才	他所
清水	久志	釋久遠	平成 22 年 5 月 25 日	75 才	鴨の巣
廣本	翠	釋浄翠	平成 22 年 6 月 1 日	83 才	モンライ
熊崎	昭雄	釋昭然	平成 22 年 6 月 7 日	82 才	上平原 1
天野	千恵子	釋慈恵	平成 22 年 6 月 29 日	81 才	望ヶ丘
馬場	トシ子	釋尼寶道	平成 22 年 7 月 1 日	98 才	荒野
桧垣	チエ子	釋正智	平成 22 年 7 月 1 日	97 才	上平原 1
北尾	晴	釋達	平成 22 年 7 月 9 日	69 才	宮原
亀田	一枝	釋入法	平成 22 年 7 月 29 日	76 才	東長

去年（平成 21 年 8 月 1 日）から今年（平成 22 年 7 月 31 日）までにお浄土に還られた方々です。いずれも懐かしい方々です。

☆初盆追悼法要を 8 月 16 日午後 1 時半より勤めますので誘い合わせてお参

りください。

☆御礼

永代経懇志 金 貳拾萬円 二野宮哲夫殿 故 二野宮實夫様 特 永代経志として

8月

## 本願をききて 疑うころなきを 聞というなり

『一念多念文意』（註釈版聖典 678 貫）

浄土真宗の篤信の人を、妙好人といいます。因幡の源左という妙好人は、江戸時代の末に生まれ、昭和の初めまで存命した人です。源左が十八歳のときに父親が亡くなりました。

その時に「親さま（阿弥陀さま）をたのめ」と父親にいわれたそうです。源左はお寺にお参りをして、聞法を重ねましたが、よくわからなかったそうです。源左は京都の本願寺まで来て、教えを聞きましたが、わかりませんでした。

あるとき、早朝から源左は、牛をつれて草刈りにいっていました。草がたまれば、牛の背中に乗せていきました。あまり乗せると牛も重たいだろうと思って、一把は自分で持ったそうです。だんだんと重さがこたえてきて、我慢できずに、牛に一把の草を乗せました。すると、すっかりと楽になりました。

した。そのとき、源左は仏のお慈悲に気がついたといいます。

自分自身の煩惱も罪もみな仏におまかせして、毎日を過ごすことができたようです。これが親さまをたのむということだと源左はうけとめました。

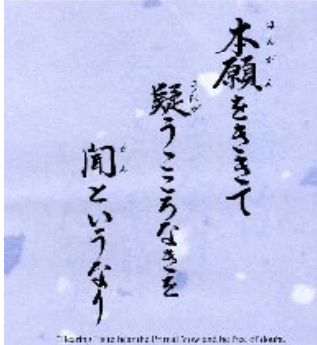
このように源左がお慈悲に気づいたことが、今月の言葉である「本願をききて疑ふころなきを『聞』といふなり」の「聞」ということです。

親鸞聖人は、どの著述においても、述べられる言葉は結論を示したものです。したがって、例えば、阿弥陀仏の本願のおいわれを聞かせていただいても、いい加減に聞いていたり、納得できないままに聞いていたりすることもあり得る話ですが、聖人は結論としての正しい「聞」にしか言及されません。

本願のおいわれを聞いて、そのままうけとめられたときが、正しく聞いたときになり、また、そのときが信心の定まるときになります。今月の言葉は、聞がそのまま信になるような事態を示しています。

私が思いますに、信心定まるときを求めて、ひたすら開法を重ねるといふ道もあるかもしれませんが、「これは正しい聞き方ではない」「これは疑いかもしれない」など、自分の心ばかりが気になって、しんどい世界に入りそうな気がします。むしろ、敬う気持ちをもって、教えを聞いていけば、源左のような機会が訪れるかもしれませんし、いつの間にか、念仏をよろこぶ生活になっているかもしれません。また念仏生活の中で、あの人に会ったから私の姿勢が変わったとか、聖人のお言葉がいつの頃からかありがたく思えるようになったなどのことが振り返れるかもしれません。

まずは、私も敬う心で、教えを聞かせていただきたいと思います。



## ☆根から見ている。

高村光太郎の「人類の泉」の詩のなかに、

【私には あなたがある / あなたがある / 私の生（いのち）を根から見ているのは / 私を全部に解してくれるのは / ただあなたです。】

という一節があります。

草木は大地の恵み、太陽の日差し、空からの雨の恵みなどによって育っています。

光太郎は智恵子に命を根から見られているという。智恵子によって生涯を生かされていた光太郎でした。

根から見るといふ表現はすごいですね。しかし、今そのことがよくわかります。

私を支える確かなものは根っこです。地上に見えるのは幹や葉ですが、それを支えているのは根っこです。花を咲かすのも、実をつけるのも、根がしっかりしていればこそです。私にとって根は母でした。どんなこともすべて見抜いて、いいことも、悪いことも承知して、その上で受け止めていてくれました。私を土台から支えてくれる存在。根から見ている、解ってくれる、それが母です。

また、「あなたが私にある事は／微笑みが私にある事です」と詩い、最後は「あなたは私のために生れてきたのだ／私にはあなたがある／あなたがある／あなたがある」と声高らかに詩っています。

どんなときにも微笑（ほほえ）んで勇気づけていたのです。

今、私は車の中や、部屋で一人で居る時、寂しくてたまらなくなった時《母さん、母さん》と呼んでいます。「母さん」といえば、その声には母親の愛情のありったけが湧いてきています。

《母さん》の言葉はナモアマダブツのお念仏です。

お念仏はアマダさまのお心が私に ってくださいているはたらきなのですね。お念仏することは、そのままアマダさまの、お母さんの大きな願いのなかにいることです。寂しくなったり、悲しくなった時大きな声で呼んでみてください。《おかあさん、お母さん》と。そして《お母さん》の変わりに【なんまんだぶ】と。

## ☆夏休み宿題大作戦

子供の頃、お盆を過ぎるとだんだん落ち着かなくなりました。それは休みは終わるので宿題が気になるのです。休みが終わるのも寂しいけれど、宿題が終わってないのも不安です。！！だから！！宿題を済ませましょう。宿題を持ってお寺に集まってください。優秀な先生（福場先生）がお手伝いしてくださいます。マジ、ガンバルぞ！！

